

【参考様式1】

令和5年度
教育課程特例校における特別の教育課程
【実施状況報告】

池田市立 神田小学校

1. 概要

池田市では平成16年3月に構造改革特別区域計画の認定を受け、「教育のまち池田」特区に取り組んできました。市立小学校全学年に「英語活動」を教科として導入（全学年年間35時間）し、平成18年度より全小学校で実施してきました。

平成20年7月より「構造改革特別区域研究開発学校」規制の特例措置が全国展開されたことにより、本市の特区認定は取り消され、文部科学省の「教育課程特例校」指定に移行し、これまでの特区内容の教育課程を継続実施しています。

平成25年度に「教育課程特例校」の実施期間の終了を迎えましたが、平成26年度以降も継続を申請し、1～4年生における「英語活動」の授業を実施しました。

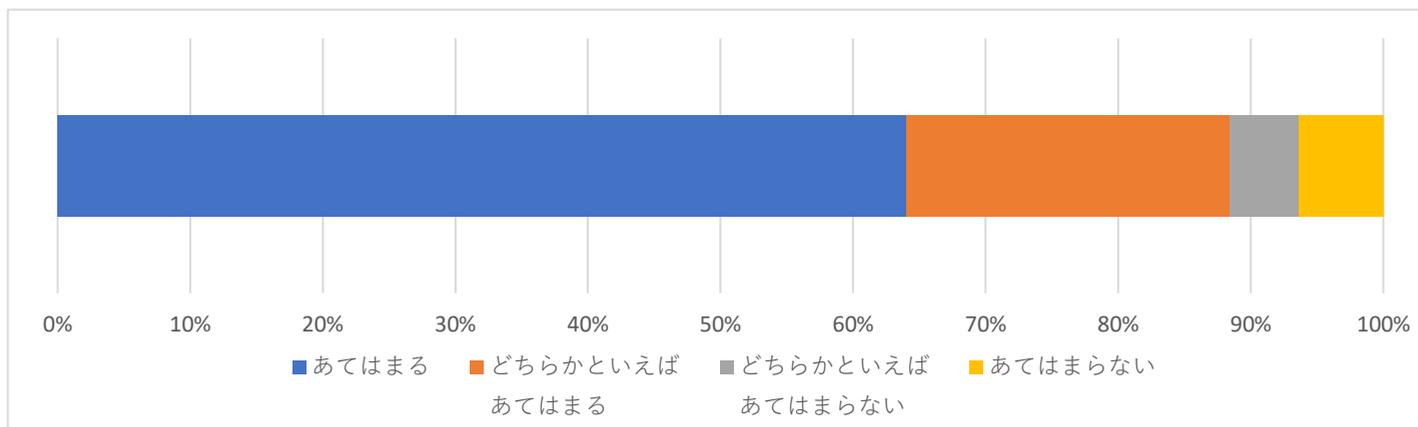
新学習指導要領への移行に伴い、「英語活動」は引き続き1・2年生で実施し、幼稚園、小・中・義務教育学校での継続的な英語学習をすすめています。

この1・2年生の「英語活動」は生活科の時間を活用して年間15時間実施しています。内容としては主に英語のリズムや音に慣れ親しむ活動を重点にし、挨拶や動作、身の回りのものを表す単語を題材にした活動を取り入れています。早期の段階から英語に触れることで、ことばや文化に対する関心を高め、正しく理解し、国際社会で生きる力を育成することをねらいとしています。中学年からの外国語活動、高学年からの外国語科への学びの連続性を意識して指導にあたっています。

2. 児童アンケートの結果

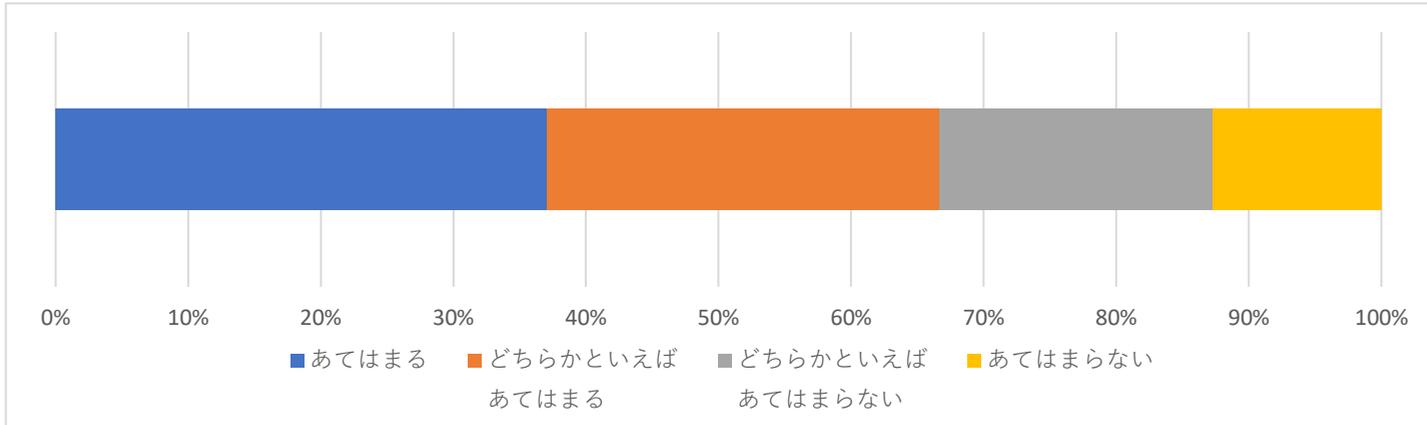
① 英語の勉強は好きだ。

	あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない
1年生	72	21	4	5
2年生	49	25	6	7
合計	121	46	10	12



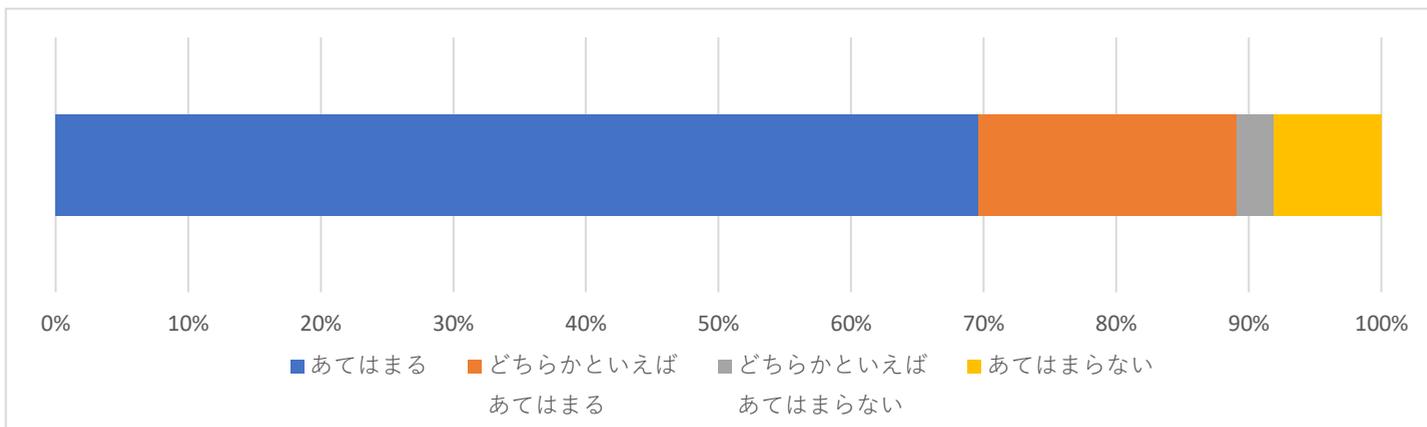
② 英語の授業はよくわかる。

	あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない
1年生	41	31	16	14
2年生	29	25	23	10
合計	70	56	39	24



③ 外国の人と英語を使って話せるようになりたい。

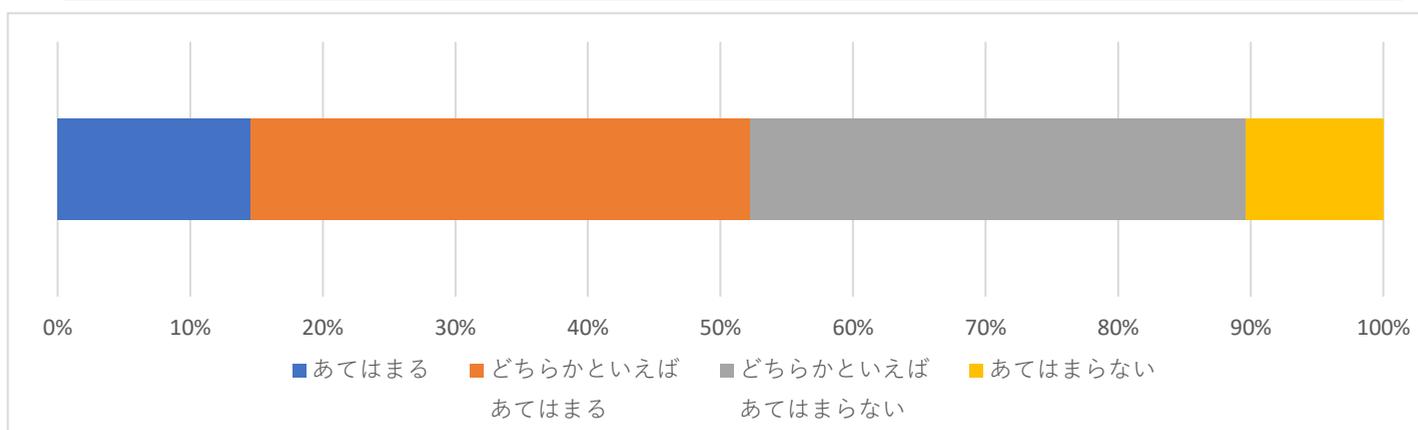
	あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない
1年生	72	15	2	8
2年生	56	21	3	7
合計	128	36	5	15



3. 保護者アンケートの結果

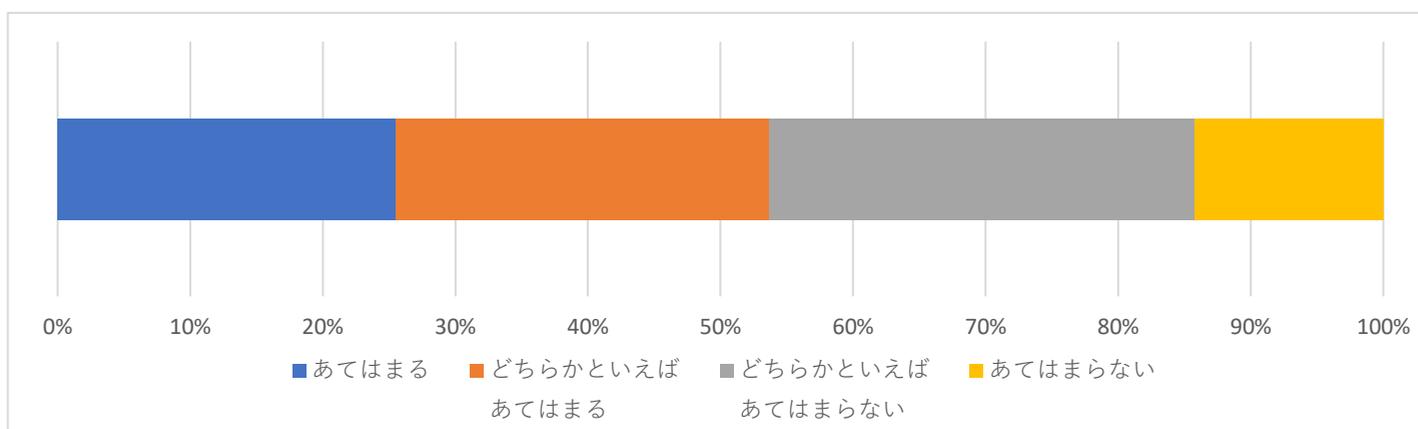
① 英語の授業を通して、お子様の英語学習に対する態度や英語を運用する知識・技能の向上を感じましたか。

	あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない
合計	49	127	126	35



② 英語の授業のことを家庭で話題にしますか

	あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない
合計	86	95	108	48



4. 学校関係者からの意見

- ・小さいうちから英語に触れられるのは良いこと、今後も継続して欲しい。
- ・外国のことばや文化に親しむことで、単にことばを学ぶだけでなく、国際理解教育につなげていくことができる。外国人児童も増えているようなので、そういう視点を大切に、外国語教育を進めてほしい。
- ・英語の授業は、文法ばかりという印象があったが、あいさつや簡単な会話のやりとりをしていると聞いた。コミュニケーション力を育成することにもつながると思う。
- ・アンケート「英語の勉強は好きだ。」の項目では、否定的な回答をしている児童も少なからずいる。小学校で英語が嫌いになってしまったら、中学進学後の学習意欲が下がってしまう。小学校低学年では、英語を学ぶ楽しさを特に大切にしてほしい。

5. 今後に向けて

1・2年生の英語活動は、年間15回実施している。授業では、単語や表現を定着させるというよりも、英語に触れることや慣れ親しむことが楽しいと思える授業づくりを目指している。ALTとのかかわりを通して、ネイティブスピーカーと直接話をする機会を作り、生きた英語に触れる機会を増やしている。

授業では、ICT機器を活用している。授業内での発話機会を増やすだけでなく、家庭で発音したものを録音する宿題を出すなど、家庭学習でも活用している。引き続き、知識や技能の向上のために、ICT機器を効果的に活用していきたい。